

管内概況

UBE 宇部市

未来を彫刻するまち

宇部市

誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る宇部に。

創造力で新しいものをつくりだす「彫刻」のように、
宇部に生きるすべての人が持つ、ひらめきと声は、
未来を形づくる限りないエネルギー。

そのチカラをひとつにして、ともに次の100年へ。

誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る宇部に。

未来を彫刻するまち、宇部です。



山陽小野田市

活力と笑顔あふれるまち
スマイルシティ山陽小野田

将来都市像の実現に向けて、歴史・産業・教育・文化・自然・スポーツといった地域資源など、本市の特性を最大限に活かしながら、市民一人ひとりが希望をもっていきいきと暮らしていくことができ、ひとが輝き、活力に満ち、市民の笑顔が広がる輝く魅力あるまちとなることを目指して施策を展開しています。

一目でわかる消防統計

令和6年4月1日現在

※令和5年12月末日現在



管轄面積

419.74km²



構成市

宇部市
山陽小野田市



人口と世帯数

人口 216,633人
世帯数 108,920世帯



職員数

定員 350人
実員 317人



常備消防費予算

3,785,048千円



署所

消防署 4署
出張所 4所



防火対象物

8,957施設



危険物施設

1,492施設



防火クラブ

幼年消防クラブ 19
少年消防クラブ 8
女性防火クラブ 1



消防車

ポンプ車 21台
その他車両 35台



救急車

高規格救急自動車 12台



消防水利

消火栓 3,626基
防火水槽 372基



火災件数※

火災件数 75件
死者 2人
負傷者 6人



救急件数※

出動件数 11,654件
搬送人員 9,213人



救助件数※

出動件数 82件
救助人員 54人



119回線着信件数※

18,813件



宇部市消防団

分団数 15分団
団員数 553人
消防防災サポーター 7人



山陽小野田市消防団

分団数 13分団
団員数 371人

1 管内の概要

宇部・山陽小野田消防組合は、宇部市及び山陽小野田市をもって組織され、本州西端にある山口県の南西部に位置し、西は下関市、北は美祢市、東は山口市、南は瀬戸内海に面しています。

交通環境を見ると、鉄道は JR 山陽新幹線をはじめ、山陽本線、宇部線、小野田線及び美祢線が東西南北に走り、高速道路は山陽自動車道が管内の中央部を横断し、海浜部には重要港湾である宇部港、小野田港があり、市街地に近い位置に山口宇部空港もあるなど、陸海空それぞれの交通環境が整っています。

気候は、年間を通じて温暖で雨が比較的小さい典型的な瀬戸内海式気候で、丘陵地や干拓地には豊かな自然があふれ、様々な動植物が生息しています。

また、南は瀬戸内海に面していることから、山と海の幸に恵まれ、市街地には厚東川、有帆川、厚狭川が流れ、貴重な水辺環境を有しています。

両市は、いずれも明治期以降、石炭産業の振興により、近代的な工業都市として発展し、現在でも瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成しています。

2 構成市の位置図



令和6年4月1日現在

	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km ²)	市の木	市の花
宇部市	157,508	79,873	286.65	クスノキ	サルビア ツツジ
山陽小野田市	59,125	29,047	133.09	クロガネモチ	ツツジ
計	216,633	108,920	419.74	—	—

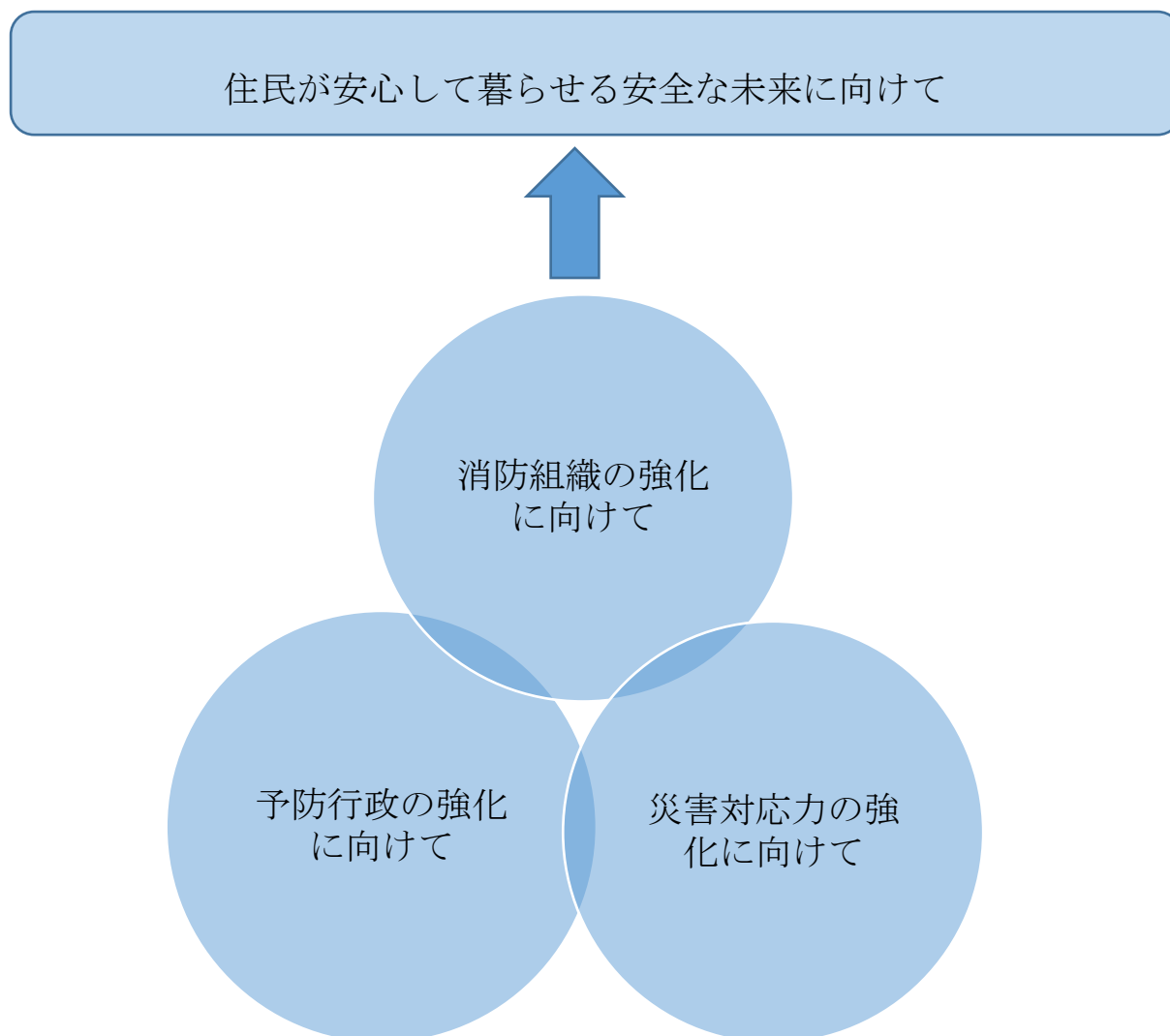
3 第二次宇部・山陽小野田消防組合基本計画及び実行計画

宇部・山陽小野田消防組合は、平成 27 年度（2015 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までの 9 年間の施策を体系的に定めた「第一次宇部・山陽小野田消防組合基本計画」を策定し業務を推進してきました。

この「第一次宇部・山陽小野田消防組合基本計画」が令和 5 年度で終了したことから、各種災害への対応や社会情勢及び多様化する住民ニーズに的確に応えるための指針として、「第二次宇部・山陽小野田消防組合基本計画」を策定しました。

基本計画は、基本構想と実行計画で構成され、基本構想は令和 6 年度（2024 年度）から令和 14 年度（2032 年度）までの 9 年間の消防組合の施策を体系的に定めたもので、基本構想で示した基本方針、大綱に基づく施策を実施するために、具体的な事務事業を明示したものが、実行計画となります。これらに基づき、消防組合の目指すべき姿を具現化するとともに、各種施策に積極的かつ献身的に取り組んでいきます。

[基本方針]



4 消防の沿革

(1) 宇部・山陽小野田消防組合の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
2008年 平成20年 5月	山口県は、消防組織法の一部を改正する法律(平成18年法律第64号)及び市町村の消防の広域化に関する基本指針(平成18年7月12日消防庁告示第33号)を受け「山口県消防広域化推進計画」を策定
2009年 平成21年11月20日	宇部市と山陽小野田市は、市街地や石油コンビナートが一体化しさらに都市形態も類似しているため、効果的かつ効率的な消防体制の構築が図られると考え、「宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会」を設置し、消防の広域化について検討を開始
2009年 平成21年11月20日	第1回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年 2月13日	第2回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年 5月20日	第3回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年 8月11日	第4回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年10月15日	第5回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年11月15日	第6回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2011年 平成23年 1月 4日	宇部市と山陽小野田市は、両市の消防広域化に係る広域消防運営計画の作成及びこれに附帯する事務を共同して行うため、「宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会」を設置
2011年 平成23年 2月16日	第1回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 3月29日	第2回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 5月31日	第3回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 6月29日	第4回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 7月20日	第5回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 8月 1日	第6回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年10月20日	第7回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年10月20日	宇部市・山陽小野田市広域消防運営計画を策定

(西暦) 年 月 日	沿 革
2011年 平成23年11月30日	山口県知事から、宇部市及び山陽小野田市の両市長に「宇部・山陽小野田消防組合」の設置許可書が交付される。 ※宇部・山陽小野田消防組合発足（平成18年の消防組織法改正後に消防が広域化されるのは、全国で7番目、県内では初の取り組み）
2012年 平成24年 2月20日	第1回宇部・山陽小野田消防組合議会 定例会開催
2012年 平成24年 3月30日	宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会 廃止
2012年 平成24年 4月 1日	「宇部・山陽小野田消防局」が発足し、1本部4署4出張所、職員定数298人で消防業務を開始
2013年 平成25年 3月28日	山陽小野田市大字厚狭487番地9へ山陽消防署を新築移転し、竣工式を挙げる
2014年 平成26年 3月 2日	高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の運用開始
2014年 平成26年 8月22日	緊急消防援助隊（延べ13隊、52人）を広島市土砂災害（広島県広島市安佐南区）の被災地へ9日間派遣
2015年 平成27年 1月28日	第一次宇部・山陽小野田消防組合基本計画を策定
2016年 平成28年 4月16日	緊急消防援助隊（延べ12隊、44人）を熊本地震（熊本県南阿蘇村河陽地区ほか）の被災地へ6日間派遣
2017年 平成29年 7月 6日	緊急消防援助隊（延べ27隊、108人）を平成29年7月九州北部豪雨災害（福岡県朝倉郡東峰村ほか）の被災地へ20日間派遣
2018年 平成30年 3月25日	宇部市大字船木461番地1へ宇部西消防署楠出張所を新築移転し、開所式を挙げる
2018年 平成30年 7月 6日	緊急消防援助隊（延べ12隊、34人）を平成30年7月豪雨災害（広島県安芸区矢野東付近ほか）の被災地へ13日間派遣
2020年 令和 2年 4月 1日	消防の充実強化を図るため、職員定数を315人に増員
2020年 令和 2年 7月 6日	緊急消防援助隊（延べ16隊、48人）を令和2年7月豪雨災害（熊本県八代市及び球磨郡球磨村ほか）の被災地へ9日間派遣
2023年 令和 5年 4月 1日	消防の充実強化を図るため、職員定数を350人に増員
2023年 令和 5年10月21日	自治体消防75周年記念山口県消防大会を開催
2024年 令和 6年 2月13日	第二次宇部・山陽小野田消防組合基本計画を策定

(2) 宇部市消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
1921年 大正10年11月11日	村から一躍市政を施行。消防組織は消防組と称し、市域を4部に分け、各部32人をもって組織し、腕用ポンプを配備
1931年 昭和6年	藤山村と合併し、消防組の組織が拡充強化
1939年 昭和14年4月1日	消防組を警防団に改名し、市域を11分団、各250人程度に編成
1941年 昭和16年	厚南村と合併し、消防組の組織が拡充強化
1943年 昭和18年	西岐波村と合併し、消防組の組織が拡充強化
1944年 昭和19年3月24日	宇部市小串通り渡辺翁記念会館内に山口県宇部消防署が設置(勅令第137号特設消防規定に基づく)され、防府市と山口市にその出張所を設置
1947年 昭和22年9月	終戦による警防団の解散に伴い、新たに11分団定員419人の消防団が結成
1947年 昭和22年12月23日	消防組織法が公布され、従来の官設消防は、警察から分離して民主的な自治体消防として発足
1948年 昭和23年3月7日	消防組織法の施行に伴い、宇部市消防本部を宇部市常盤通り一丁目宇部市役所内に設置し、宇部市消防署は従前どおり渡辺翁記念会館内に存置して、自治体消防として新発足 また、防府、山口両市の出張所は宇部消防署の管轄を離れ、人員機材をそのままに両市自治体消防として発足
1948年 昭和23年7月24日	消防法が公布され、消防業務は従来の水火災の防御鎮圧分野から大きく進展し、火災予防、原因の調査、建築許可等の同意、危険物の取締等の消防行政に画期的な職権が付与
1950年 昭和25年9月16日	宇部市消防本部を渡辺翁記念会館内(宇部市消防署と同一箇所)に移転
1954年 昭和29年10月1日	厚東、二俣瀬、小野、東岐波の4村が合併
1956年 昭和31年11月	消防団の機構改革を行い、11分団、定員600人に統合
1960年 昭和35年9月1日	宇部市消防本部及び宇部市消防署を常盤町二丁目、郵便局庁舎北隣の新庁舎に移転
1963年 昭和38年9月10日	消防法の一部改正により、救急業務が制度化され、救急車1台を配備して、救急隊を編成

(西暦) 年 月 日	沿 革
1970年 昭和45年11月	宇部市消防団の事務局を市長部局から消防本部総務課へ移管
1975年 昭和50年 9月26日	山口県消防操法大会応急操法ポンプ車の部において初優勝
1977年 昭和52年 4月 1日	吉敷郡阿知須町から同町の救急業務に関する事務を受託
1977年 昭和52年 4月 1日	宇部市消防本部消防職員共済会設立
1978年 昭和53年 4月18日	厚南中野に厚南消防出張所を建築、消防業務を開始し職員定数を97人に増員
1980年 昭和55年 4月 1日	西岐波西大道に東部消防出張所を建築、業務を開始し、職員定数を124人に増員
1982年 昭和57年12月 6日	山口宇部空港内に空港分遣所を設置
1988年 昭和63年 3月31日	山口宇部空港内の空港分遣所を廃止
1989年 平成 元年 1月19日	宇部市消防本部及び宇部市消防署を港町二丁目の新庁舎に移転し、消防緊急情報システムを導入
1990年 平成 2年11月30日	高齢化社会に伴い、緊急時の通報として宇部市緊急通報システムを構築し、集中管理センターを消防本部通信指令室に設置
1991年 平成 3年 9月26日	山口県消防操法大会応急操法小型ポンプの部において初優勝
1992年 平成 4年11月 6日	救急救命士及び高規格救急自動車による高度処置救急隊の運用開始
1995年 平成 7年 4月 1日	二俣瀬に北部消防出張所を建築、業務を開始し、職員定数を161人に増員
1995年 平成 7年 8月 1日	宇部地区地震連絡協議会を設立(同年7月31日)し地震発生情報伝達システムの運用を開始
1996年 平成 8年 4月 1日	消防の充実強化を図るため、職員定数を164人に増員
1997年 平成 9年 4月 1日	消防の充実強化を図るため、職員定数を170人に増員
1997年 平成 9年 5月15日	山口県消防大会を開催
1998年 平成10年 4月 1日	西部消防出張所を西消防署に昇格し、職員定数を176人に増員

(西暦) 年 月 日	沿 革
1999年 平成11年10月 1日	消防緊急通信指令施設更新
2000年 平成12年 4月 1日	消防の充実強化及び拡充を図るため、職員定数を184人に増員し通信指令部門を通信指令課として独立
2000年 平成12年10月 1日	吉敷郡阿知須町から同町の消防業務に関する事務を受託
2002年 平成14年 4月 1日	中央消防署に救助係を設置
2002年 平成14年10月16日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練を阿知須町きらら浜で実施
2003年 平成15年 8月 1日	救命率向上を図るため、山口大学医学部附属病院と相互協力し、救急車医師同乗システム（通称:ドクターカー）を運用開始
2004年 平成16年11月 1日	楠町との合併により楠消防出張所を開設し、1本部、2署、3出張所、職員定数194人で運用開始 また宇部市消防団の定員を宇部消防団560人、楠消防団180人で運用開始
2007年 平成19年 3月 1日	高規格救急自動車1台を導入し、保有する7台全ての救急車の高規格化が完了
2007年 平成19年 4月 1日	宇部消防団に方面隊を組織し、定員520人に改正
2008年 平成20年 5月30日	宇部市危険物安全協会と宇部市防火協会を統合し、宇部市防災協会を設立
2008年 平成20年 9月20日	山口県消防操法大会基本操法小型ポンプの部において初優勝
2009年 平成21年10月31日	山口市阿知須区域の事務受託を廃止
2011年 平成23年 3月14日	緊急消防援助隊（4隊、13人、車両4台）を東日本大震災（宮城県石巻市）の被災地へ4日間派遣
2013年 平成25年 4月 1日	宇部市消防団（宇部消防団、楠消防団）が統合

(3) 小野田市消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
1898年 明治31年 2月	須恵村に公設消防組を設置
1908年 明治41年 9月	高千帆村に公設消防組を設置
1939年 昭和14年 4月15日	小野田・高千帆両町の消防組を警防団に改名
1940年 昭和15年11月 3日	小野田町と高千帆町が合併して小野田市となり、両町の警防団は小野田市警防団と再編
1947年 昭和22年 6月27日	小野田市消防団を結成し、団本部と8個分団を編成、450人の組織を設置
1948年 昭和23年12月 1日	市役所社会課内に小野田市消防本部を設置
1949年 昭和24年 5月 1日	小野田市大字小野田5993番地へ消防本部を設置し、当市消防行政は市の一般行政から独立、消防職員の定数は消防長以下5人で、消防業務を開始
1950年 昭和25年 4月 1日	小野田市消防団員の定員を450人から275人に改正
1951年 昭和26年 1月18日	消防団第2分団の水上部を独立させ、水上分団を設置
1951年 昭和26年 8月 3日	市長、消防長、団長、市議会議員4人、一般有識者10人により小野田市消防委員会を設置
1955年 昭和30年 5月30日	高松宮殿下を迎え、消防自動車80台、消防職団員3,000人による山口県消防機関連合訓練大会を挙行
1963年 昭和38年 3月 9日	小野田市大字小野田5896番地の1に消防本部・署庁舎を新築移転
1963年 昭和38年 4月 1日	小野田市危険物安全協会を設立(10事業所)
1964年 昭和39年12月11日	非常災害連絡用として消防無線局を開局 ・基地局(10W 1基) ・陸上移動局(10W 3基) ・携帯陸上移動局(1W 2基)
1965年 昭和40年10月 1日	救急業務を開始
1970年 昭和45年12月 1日	小野田市化学消火剤共同備蓄会を設立(34事業所)
1977年 昭和52年10月17日	大型化学消防自動車、大型高所放水車、泡原液搬送車を配置
1978年 昭和53年12月 5日	一斉指令装置を設置

(西暦)	年	月	日	沿	革
1983年	昭和58年	7月	1日	機構改革により、新たに予防課を設置、総務課に消防団係を設置	
1985年	昭和60年	6月	1日	石井手保育園に幼年消防クラブを結成、以後6保育園がクラブを結成	
1985年	昭和60年	7月19日		刈屋婦人防火クラブを結成	
1985年	昭和60年	9月	1日	小野田市防火委員会を結成	
1987年	昭和62年	11月11日		全国消防長会危険物委員会を開催	
1990年	平成2年	5月23日		山口県消防大会を開催	
1992年	平成4年	4月	1日	女性消防団員10人を採用	
1993年	平成5年	4月	1日	職員定数を54人から57人に増員	
1995年	平成7年	9月	1日	県下初の地震を想定した山口県総合防災訓練を実施	
1995年	平成7年	10月24日		山口県幼年消防大会を開催	
1996年	平成8年	4月	1日	高規格救急自動車を新規配備し高度救急業務を開始	
1997年	平成9年	3月26日		耐震性貯水槽(100t)新設、以後市街地に9基設置	
1999年	平成11年	3月25日		消防緊急通信指令施設(I型)が完成	
1999年	平成11年	4月	1日	小野田市高栄一丁目6番1号へ消防本部・消防署庁舎を新築移転し、供用開始(本庁舎:鉄筋コンクリート一部鉄骨造2階建)	
1999年	平成11年	7月	1日	きららビーチ完成に伴い、消防署に水難救助隊を設置	
2000年	平成12年	1月20日		消防訓練塔完成(主塔:5階建、補助塔:3階建)	
2000年	平成12年	3月29日		化学消火薬剤備蓄タンク(20k1)及び消火薬剤倉庫が完成	
2000年	平成12年	6月	8日	山口県危険物安全大会を開催	
2002年	平成14年	3月27日		小野田市消防団が地域活動功労による消防庁長官表彰を山口県で初受賞	
2002年	平成14年	10月17日		全国消防長会予防委員会を開催	
2005年	平成17年	3月21日		小野田市消防委員会を廃止	

(4) 山陽町消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
1948年 昭和23年 8月	厚狭町消防本部を設置
1956年 昭和31年 9月	厚狭町と埴生町が合併し山陽町となり、山陽町消防本部を設置
1963年 昭和38年 1月	山陽町危険物安全協会を設立
1971年 昭和46年 4月	楠町と救急業務に関する事務委託協定を締結
1973年 昭和48年 6月	山陽地区消防組合を設立(許可番号:指令地方第327号) 山陽町と楠町で消防に関する事務を共同処理
1974年 昭和49年10月	楠出張所開設、職員6人、消防ポンプ車、救急車、連絡車の3台配備し業務開始 埴生出張所(旧埴生消防事務室)開設、職員5人、消防団消防ポンプ自動車を管理
1981年 昭和56年 4月	埴生出張所完成、職員7人、水槽付消防ポンプ車、救急車、連絡車の3台を配備
1993年 平成5年 3月	消防緊急通信指令施設(I型)を設置
1993年 平成5年 7月	消防組合発足20周年記念式典を開催
1994年 平成6年 3月	消防用無線中継局を松岳山に開局
1994年 平成6年11月	山陽署事務室等増築
2000年 平成12年 8月	山口県総合防災訓練を実施
2002年 平成14年 4月	高規格救急自動車を山陽消防署に配備し高度救急業務開始
2003年 平成15年 6月	山口県危険物安全大会を開催
2004年 平成16年 4月	職員8人(内3人救急救命士)を採用し実員64人に増員
2004年 平成16年 5月	山口県消防大会を開催
2004年 平成16年10月31日	組合構成団体の楠町が宇部市と合併、山陽地区消防組合を解散
2004年 平成16年11月 1日	山陽町消防本部を設立 1本部1署1出張所、職員定数54人で消防業務開始

(5) 山陽小野田市消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
2005年 平成17年 3月22日	<p>小野田市と山陽町の合併により、山陽小野田市が誕生したことに伴い、常備消防は、2消防本部が統合して山陽小野田市消防本部（山陽小野田市高栄一丁目6番1号）が発足、1本部2署1出張所、職員定数110人の消防体制で消防業務を開始</p> <p>一方、非常備消防も2市町の消防団が統合し、1団本部、22分団、定員503人による消防団組織を編成</p>
2005年 平成17年 9月17日	<p>山口県消防操法大会応急操法小型ポンプの部において初優勝</p>
2006年 平成18年 3月20日	<p>消防緊急通信指令システム（I型）を更新</p>
2006年 平成18年 5月28日	<p>消防学校フェスタで従来の幼年消防クラブ大会に替えて、山陽小野田市引受けによるちびっ子防火フェアを開催</p>
2007年 平成19年 4月 1日	<p>山陽小野田市消防団は合併協定事項に基づき、小学校区を基本に統合、合併当時の22個分団を13個分団に再編し、定員も503人から485人に改正、業務開始</p>
2007年 平成19年 4月12日	<p>出合分団及び厚陽分団の車庫完成に伴い、分団車庫引渡披露式を実施</p>
2008年 平成20年 3月18日	<p>厚狭北分団の車庫完成に伴い、分団車庫引渡披露式を実施</p>
2011年 平成23年 3月14日	<p>緊急消防援助隊（2隊、5人、車両2台）を東日本大震災（宮城県石巻市）の被災地へ4日間派遣</p>

5 歴代消防長

(1) 宇部・山陽小野田消防局

代	氏名	期間	備考
初	杉野嘉裕	平成24年4月1日～平成27年3月31日	
2	江本祥三	平成27年4月1日～平成29年3月31日	
3	山本晃	平成29年4月1日～平成31年3月31日	
4	石部隆	平成31年4月1日～令和5年3月31日	
5	杉本秀一	令和5年4月1日～現在	

(2) 宇部市

代	氏名	期間	備考
初	星出寿雄	昭和23年3月7日～昭和25年9月15日	助役
2	中間義雄	昭和25年9月16日～昭和42年3月31日	
3	西田竹一	昭和42年4月1日～昭和42年5月31日	助役
4	三井太兵衛	昭和42年6月1日～昭和48年1月10日	
5	西田一美	昭和48年1月11日～昭和52年11月30日	
6	穂村馨	昭和52年12月1日～昭和55年3月31日	
7	佐野慶一	昭和55年4月1日～昭和58年3月3日	
8	石土吾市	昭和58年3月4日～昭和61年3月31日	
9	中川典義	昭和61年4月1日～平成元年3月31日	
10	河野積善	平成元年4月1日～平成2年3月31日	
11	片岡信行	平成2年4月1日～平成4年3月31日	
12	山縣熙	平成4年4月1日～平成8年3月31日	
13	若杉清美	平成8年4月1日～平成11年3月31日	
14	神田義正	平成11年4月1日～平成13年3月31日	
15	原谷恒雄	平成13年4月1日～平成15年3月31日	
16	中山武久	平成15年4月1日～平成17年3月31日	
17	矢野洋司	平成17年4月1日～平成19年3月31日	
18	利重和彦	平成19年4月1日～平成22年3月31日	
19	芥川貴久爾	平成22年4月1日～平成24年3月31日	

(3) 小野田市

代	氏名	期間	備考
初	森本品一	昭和23年5月1日～昭和32年7月10日	
2	豊田重康	昭和32年7月11日～昭和39年3月31日	
3	近間武久	昭和39年4月1日～昭和43年3月31日	
4	岡義雄	昭和43年4月1日～昭和47年3月31日	
5	大中誠	昭和47年4月1日～昭和48年3月30日	

6	濱崎清治	昭和48年10月1日～昭和59年3月31日	
7	金澤俊雄	昭和59年4月1日～昭和62年3月31日	
8	西田一	昭和62年4月1日～平成元年3月31日	
9	尾山克己	平成元年4月1日～平成3年6月20日	
10	西村信二	平成3年6月21日～平成8年3月31日	
11	平田武	平成8年4月1日～平成10年3月31日	
12	高橋茂	平成10年4月1日～平成16年3月31日	
13	中里裕典	平成16年4月1日～平成17年3月21日	

(4) 山陽町

代	氏名	期 間	備 考
初	真鍋亭造	昭和23年8月1日～昭和25年4月1日	助役
2	八木正一	昭和25年5月4日～昭和27年5月31日	助役
3	中村貞雄	昭和27年10月11日～昭和31年11月5日	助役
4	細迫左文太	昭和31年11月17日～昭和33年4月9日	町長
5	縄田定人	昭和33年6月15日～昭和39年12月31日	助役
6	田中文	昭和40年4月5日～昭和43年11月20日	助役
7	小玉 礦	昭和44年2月1日～昭和45年4月30日	職務代理
8	福永内匠	昭和45年5月1日～昭和46年6月15日	
9	小玉 礦	昭和46年7月1日～昭和48年5月31日	
10	安部 學	平成16年10月1日～平成17年3月21日	

(5) 山陽地区消防組合

代	氏名	期 間	備 考
初	小玉 礦	昭和48年6月1日～昭和58年1月10日	
2	庄野義章	昭和58年1月11日～昭和60年3月31日	
3	金重成昭	昭和60年4月1日～昭和63年3月31日	
4	尾田勝	昭和63年4月1日～平成7年3月31日	
5	野村隆之	平成7年4月1日～平成13年3月31日	
6	笹木慶之	平成13年4月1日～平成14年3月31日	
7	安部 學	平成14年4月1日～平成16年9月30日	

(6) 山陽小野田市

代	氏名	期 間	備 考
初	中里裕典	平成17年3月22日～平成20年3月31日	
2	山根雅敏	平成20年4月1日～平成22年3月31日	
3	松野清和	平成22年4月1日～平成24年3月31日	

6 過去の主な災害等

(1) 宇部・山陽小野田消防組合発足以降の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
H25. 9. 8	宇部市 大字沖宇部	工場内の中間製品貯蔵タンクより出火 損害額 7, 440千円 軽症2人
H26. 4. 27	宇部市 大字今富	倉庫から出火し、山林に延焼 建物9棟全焼、1棟部分焼 (836㎡) 損害額 7, 849千円 山林61a焼失
H26. 8. 18	山陽小野田市 新沖二丁目	発電所のベルトコンベアーから出火 損害額 122, 409千円
H27. 5. 1	山陽小野田市 大字小野田	工場内のベルトコンベアーから出火 損害額 9, 428千円
H27. 8. 5	山陽小野田市 港町	ガス充てん工場作業場から出火 損害額 84, 040千円 負傷者1人

(2) 宇部市の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S20. 7. 2	市内	B29爆撃機による空襲 4, 953戸全焼 り災世帯23, 413世帯 死者336人 負傷者591人
S25. 2. 18	常盤町二丁目	百貨店から出火 建物7棟焼損 (1, 404㎡) 損害額 21, 989千円
S28. 3. 2	梶返	中学校から出火 建物4棟焼損 (5, 690㎡) 負傷者 6人 損害額 70, 000千円
S30. 11. 20	小串	病院から出火 建物1棟全焼 (2, 507㎡) 損害額 24, 717千円
S34. 7. 11	大字藤曲	化学工場が爆発 建物1棟 (560㎡) 死者11人 負傷者38人 損害額 250, 000千円
S36. 4. 1	川上(男山)	山林から出火 3日間延焼 462ha焼失 損害額 37, 582千円
S37. 10. 29	大字上宇部	高等学校から出火 建物4棟焼損 (999㎡) 損害額 2, 704千円
S40. 3. 19	東海岸通り二丁目	木工所から出火 建物12棟焼損 (1, 788㎡) り災世帯19世帯 負傷者2人 損害額 30, 506千円
S43. 6. 12	中央町三丁目	家具百貨店から出火 建物18棟焼損 (2, 658㎡) り災世帯26世帯 負傷者2人 損害額 93, 458千円
H元. 12. 7	新天町二丁目	物品販売店舗から出火 建物1棟全焼 (4, 068㎡) り災世帯3世帯 負傷者3人 損害額 510, 776千円

(3) 旧小野田市の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S26. 6. 6	くし山中	小学校から出火 校舎2棟全焼 (919㎡) 損害額 7,048千円
S30. 3. 7	北栄町	映画館から出火 建物1棟全焼 (659㎡) 損害額 5,050千円
S33. 4. 8	くし山東	高等学校から出火 校舎1棟全焼 (347㎡) 損害額 1,700千円
S34. 11. 13	第一日の出町	パチンコ店から出火 建物3棟全焼 (292㎡) り災世帯12世帯 り災人員41人 損害額 168,298千円
S53. 4. 9	北真土郷	林野から出火 焼損面積27ha 損害額 24,003千円
S56. 7. 7	西沖	石油精製工場(動力管理室から出火)建物1棟部分焼 損害額 17,130千円(原因は落雷) 負傷者1人
S59. 2. 28	丸河内一区	電気製品の倉庫から出火 建物1棟全焼 (869㎡) 損害額 134,410千円
S60. 6. 23	南真土郷	樹脂工場から出火 建物1棟全焼 (660㎡) 損害額 151,675千円
S63. 4. 26	平和町	専用住宅から出火 建物20棟を全半焼 (1,486㎡) り災世帯25世帯 り災人員63人 損害額 347,974千円
H11. 9. 7	小野田港	製鋼工場から水蒸気爆発が発生 出火建物は爆発により損壊したが、 火災による損害はスクラップのみ

(4) 旧山陽町の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S25. 5. 15	火薬町	化学工場内の廃酸分解から出火 建物3戸全焼 (298㎡) 損害額 100,000千円 半焼1戸 死者3人
S26. 6. 7	本町1	映画館から出火 映画館(200㎡)を全焼 半焼5戸 損害額 8,750千円 り災世帯6世帯
S35. 2. 20	山陽本線	山陽本線厚狭埴生駅間「さくら」の電源車から出火 損害額31,320千円
S40. 3. 21	保戸	山林から出火 山林13.8ha焼失 損害額 2,202千円
S42. 6. 4	大持	山林から出火 再燃で延べ4日間にわたり延焼 損害額 6,291千円、山林18.4ha焼失
S43. 4. 30	大持	山林から出火 山林10.3ha焼失 損害額 458千円
S45. 1. 16	殿町3	小学校(木造2階建)から出火 校舎半焼 (542㎡) 損害額 2,634千円
H15. 11. 8	浜崎	「まつり山陽」前夜祭花火大会において花火の爆発事故 損害額 94千円 死者2人 重症1人 軽症1人

(5) 山陽小野田市の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
H17.10.24	新沖二丁目	発電所のベルトコンベアーから出火 損害額 47,806千円

(6) 宇部・山陽小野田地区における自然災害

年 月 日	内 容	被 害 概 要	
		宇 部 市	山陽小野田市
S17.8.27	周防灘台風により高潮が発生、市内堤防が相次いで決壊し市街地及び低地に海水が浸水し、甚大な被害をもたらした。	死者 232 人、行方不明 65 人、負傷者 118 人、家屋全壊 71 戸、家屋流出 472 戸、家屋半壊 643 戸、浸水 5,082 戸	(小野田市)死者 141 人、行方不明 3 人、負傷者 27 人、家屋全壊 195 戸、家屋流出 96 戸、家屋半壊 985 戸、床上浸水 509 戸、船舶流失 350 艘
S28.6.25 ~6.29	九州山口を豪雨が襲い、約 5 日間にわたる記録的な大雨となり、大きな被害をもたらした。	死者 1 人、家屋全半壊 29 戸、浸水 3,707 戸、真締川堤防 3 か所決壊、13 鉱完全水没、	(小野田市)死者 2 人、重傷者 1 人、家屋全半壊 44 戸、家屋流出 1 戸、床上浸水 179 戸、道路決壊 30 ヶ所、橋梁流出 4 箇所(山陽町)厚狭川決壊、死者 6 人、負傷者 5 人、家屋全半壊 19 戸、床上浸水 1,503 戸
H3.9.27	台風第 19 号は、中心気圧 945hpa、最大風速 45m/s の大型台風で、大きな被害をもたらした。	死者 1 人(太陽熱温水器落下による)、重傷者 3 人、軽傷者 8 人、家屋半壊 41 戸	(小野田市)負傷者 7 人、家屋全壊 1 戸、家屋半壊 10 戸、床上浸水 1 戸 (山陽町)家屋全壊 2 戸、家屋半壊 1 戸、床上浸水 11 戸、床下浸水 23 戸
H11.9.24	台風第 18 号は、中心気圧 950hpa、最大風速 45m/s の大型台風で竜巻、高潮による大きな被害をもたらした。	重傷者 4 人、軽傷者 7 人、家屋全壊 13 戸、家屋半壊 536 戸、床上浸水 241 戸、床下浸水 3,408 戸	(小野田市)重傷者 12 人、軽傷者 70 人、家屋全壊 17 戸、家屋半壊 118 戸、西部石油沖護岸決壊、床上浸水 83 戸 (山陽町)負傷者 5 人、住宅全壊 32 世帯、半壊 421 世帯、非住居の被害 215 戸、救出者 21 人
H21.7.21 ~7.26	梅雨前線に伴う集中豪雨(平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨)のため、河川の氾濫等により多くの被害をもたらした。	家屋半壊 4 戸、床上浸水 42 戸、床下浸水 20 戸	床上浸水 44 戸、床下浸水 221 戸、救助出動 9 件、救助人員 49 人
H22.7.15	梅雨前線の停滞に伴う集中豪雨による厚狭川等の氾濫のため、山陽地区において多くの被害をもたらした。	家屋半壊 1 戸、家屋一部損壊 8 戸、床上浸水 2 戸、床下浸水 60 戸	家屋半壊 8 戸、床上浸水 446 戸、床下浸水 351 戸、救助人員 92 人(宇部・光・岩国消防応援隊救出を含む)

7 応援協定等締結状況

協定の名称		締結先機関	締結年月日	
1	山口県内広域消防相互応援協定書	山口県内全域の市町及び消防組合	H24. 4. 1	
2	中国自動車及び山陽自動車道における消防相互応援協定書	下関市・美祢市・山陽小野田市・宇部市 山口市・防府市・周南市・下松市・光市 光地区消防組合・岩国市・岩国地区消防組合	H24. 4. 1	
3	県道山口宇部線における消防相互応援協定書	山口市・宇部市	H24. 3. 28	
4	石油コンビナート等特別防災区域に係る消防相互応援協定書	岩国地区消防組合・下松市・周南市・下関市	H24. 4. 1	
5	「母体・新生児救急搬送マニュアル」に係る救急業務相互応援協定書	下関市・山口市・萩市・防府市・下松市・長門市 周南市・柳井地区広域消防組合・美祢市 光地区消防組合・岩国地区消防組合	H24. 4. 1	
6	山口県消防防災ヘリコプター応援協定	山口県・山口県内全域の市町及び消防組合	H24. 4. 1	
7	船舶消火に関する業務協定	宇部海上保安署	H24. 4. 1	
8	山口宇部空港及びその周辺における消火救援活動に関する協定	山口宇部空港	H24. 4. 1	
9	ガス漏れ及び爆発事故等の防止対策に関する申し合わせ	都市ガス	山口合同ガス(株)宇部支店	H26. 4. 1
		LPガス	山口県LPガス協会宇部小野田支部	H24. 4. 1
			山口県LPガス協会厚狭支部	H24. 4. 1
10	救急車医師同乗システムに関する協定書	国立大学法人山口大学	H24. 4. 1	
11	気管挿管実習に係る協定書	山口大学医学部附属病院	H24. 4. 1	
12	宇部・山陽小野田消防局地域における医療救護活動に関する協定	山口大学医学部附属病院	H24. 4. 1	
		医療法人社団宇部興産中央病院	H26. 10. 1	
		山口労災病院	H24. 4. 1	
13	エボラ出血熱患者の移送に関する協定書	山口県宇部環境保健所	H27. 6. 5	
14	宇部・山陽小野田消防局地域における医療救護活動に関する協定	山陽小野田市民病院	H30. 2. 9	
15	消防用設備等点検報告の情報提供に係る協定書	一般財団法人山口県宅建協会宇部支部 公益社団法人全日本不動産協会山口県本部	R3. 8. 2	